

フィガロの結婚

原作：ボーマルシェ

脚本：ダ・ポンテ

作曲：モーツァルト

登場人物

アルマヴィーヴァ伯爵 バリトン

伯爵夫人(ロジーナ) ソプラノ

フィガロ 伯爵の従者 バリトン

スザンナ 伯爵夫人の小間使い ソプラノ

ケルビーノ 伯爵の小姓 メゾソプラノ (ズボン役)

ドン・バルトロ 伯爵の医師 バス

マルチェリーナ 女中頭 メゾソプラノ

ドン・バジーリオ 伯爵夫人の音楽教師 テノール

アントーニオ 庭師 バス

バルバリーナ アントーニオの娘 ソプラノ

第1幕 スザンナの部屋

フィガロはスザンナとの結婚を控えて、二人がこれから一緒に住む部屋の準備に余念がない。しかし、スザンナは伯爵が一度放棄した初夜権を復活させようと企んでいることをフィガロに告げる。フィガロは持ち前の知恵で、それを阻止することを考える。有名なアリア「お殿様、ダンスを踊りになるなら…」がここで歌われる。そこにケルビーノが現れ、さらに伯爵が現れて、どたばたに…ケルビーノは伯爵から軍隊行きを命じられ、しよげ返る。フィガロはここで、有名なアリア「もう飛ぶまいぞこの蝶々…」を歌って、幕になる。

第2幕 伯爵夫人の寝室

伯爵夫人は伯爵の心が夫人から離れてゆくことを嘆く。スザンナとフィガロは夫人を交えて、伯爵をとっちめる相談をする。そこへケルビーノがやってきて、夫人とスザンナはケルビーノに女装をさせる。ちょうどそのときに狩にいていたはずの伯爵が戻ってきて、夫人が誰かを隠していると疑う。それからいろいろあって…

第3幕 お城の広間

伯爵は事態がおかしいので、企みがあるかも知れないと疑っている。マルチェリーナはフィガロの借金のかたに、フィガロとの結婚を迫り、伯爵の下で裁判に…しかしどんでん返し…

第4幕 お城の庭

スザンナと伯爵の逢引、しかし本当は…